

[講演要旨]

京都大学理学部に所蔵されている自然災害史料の解読と画像化

加納靖之*(京都大学防災研究所)・服部健太郎(京都大学大学院理学研究科)・
中西一郎(京都大学大学院理学研究科)・安国良一(住友史料館)・五島敏芳(京都大学総合博物館)・
渡辺周平(京都大学大学院理学研究科)・岩間研治(京都大学大学院理学研究科)・福岡浩(新潟大学)

§1. はじめに

京都大学には附属図書館および各部署の図書館、あるいは研究室に多くの古文書・古記録が所蔵されている。たとえば、1847年善光寺地震に関する古文書・古記録で、京都大学に所蔵されているものとして、これまでに8冊の記録、4枚の絵図・かわら版、8枚の陸地測量図(地震後の測量)を確認している。

これまでの歴史地震研究で明らかになっているように、善光寺地震は、災害の発生が、家屋の倒壊、火災、山崩れだけでなく、堰止め湖による村の水没、堰止め湖の決壊による洪水、と長期間にわたったこと、善光寺での本尊開帳の期間中の地震発生であり、全国から集まった多くの参詣者が犠牲になったこと、などの条件から、多くの古文書・古記録が残され、絵図も多く残っている。短期間の調査で、京都大学にも相当数が所蔵されていることがわかった。これらを活用することにより、文献記録間の比較だけでなく、絵図との比較も可能になると考えられる。

ここでは、京都大学所蔵の善光寺地震に関する古文書・古記録のうち、全文翻刻および画像化をおこなった3件の文献史料について、その概要を報告する。

§2. 善光寺地震と文書の例

善光寺地震は、弘化4年3月24日(1847年5月8日)夜に発生した。M=7.4と推定されている。被害は、現在の長野市・飯山市を中心として、長野県北部から新潟県西部に広がっている。震源は浅く、長野市・飯山市に地震断層が出現した。地震動・火災による被害だけでなく、多数の山崩れによる被害、堰止め湖による村の水没が生じた。特に虚空蔵山の山崩れによる犀川の堰止め湖が4月13日に決壊し、さらに被害を大きくした。

今回報告するのは、京都大学大学院理学研究科で所蔵する以下の3点の史料についてである。内容は、既存の史料集に収録されているものがほとんどである。

「信越震漲録」。全部で37通の写しからなる筆写本で、書写者は不明である。内訳は、信濃および越後の諸藩・代官所から勘定所を主とする幕府側へ送られた届書が大部分をしめている。その他、江戸の町方や勘定書の記録、戯文、私信と思われるものの写しも含まれている。既存の史料集では確認できない桑名藩士の個人的な記録が1通含まれている。

「弘化四丁未大地震御届書写」。全部で37通の写しから成る。「弘化四年丁未八月十四日西澤周助政方写、西澤氏印、52丁」とある。ただし3通は地震とは関係のなく、風損と異国船についての届書である。

「信州大地震前後天災之記事」。上記2点の史料の内容と重複しているものが多く見られる。ただし、一部の表記や数字に違いがあり、書写等の過程で変遷があったことが推察される。また、この史料の後半部分には、丹後地方で発生した陥没(「丹後国狭野村外三ヶ村変地先届」)や弘化三年七月の京都の洪水など、善光寺地震以外の自然災害や事件についての記事もみられる。

§3. 画像化と公開用 web サイト構築

上記3点の史料については、デジタル撮影による画像化をおこなった。ここで作成した画像は、ホームページ(<http://kozisin.rcep.dpri.kyoto-u.ac.jp/>)で公開することとしている。画像だけでなく、翻刻テキストも合わせて公開できるようなサイトの構築をおこなった。翻刻テキストはブラウザ上で入力することができ、注釈等も挿入することができる。

§4. おわりに

これらの翻刻は、京都大学古地震研究会の初期の活動の一環として実施したものである。この研究会は、地球物理学や地質学の研究者がくずし字を読み、史料を活用できるようになることを目指してはじまったものである。その後、人文情報学の研究室や図書館からの参加者も加わり、翻刻支援や史料情報の可視化などのあらたな研究テーマにつながっている。今回作成した画像の活用も含め、この研究会から生じたさまざまな研究あるいは技術が、史料活用への可能性をひろげると考えられる。

謝辞

本研究の一部について、京都大学防災研究所の一般共同研究(25G-01)、および、文部科学省による「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の支援を受けました。